

会議の名称	第5回茅野市行財政審議会		
開催日時	令和4年2月3日(火) 18時00分～19時30分		
開催場所	オンライン及び703会議室		
出席者	※出席委員等：両角会長、守屋副会長、小平委員、宮坂委員、半田委員、鈴木委員、唐澤委員、中村委員、大川委員、両角(博)委員、丸茂委員、柿澤委員 ※市側出席者：柿澤副市長、小平企画部長、平澤財政課長、有賀P推進課長、野明人材育成担当、田中企画課長、矢島行革・デジタル係長、藤澤主査		
欠席者	高木委員、藤野委員、鶴石委員		
公開・非公開の別	公開	非公開	傍聴者の数
			0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
	議事 1 開会 2 委員交代について 資料1 3 会長挨拶 4 会議内容 (1) 答申のイメージについて 資料2 * 説明及び質疑 (2) 茅野市の行財政の目指すべき将来像に向けた対策について 資料3・4 * 委員の意見を反映し正副会長・事務局で修正する 5 その他 * 次回審議会 2/17(木) 18:00～予定 オンライン会議 6 閉会 議事録 事務局 1 開会 2 委員交代について 資料1 9番委員について2月1日付、伊原委員から中村委員へ交代 3 会長挨拶 答申のイメージ等整理をした。委員からの意見を反映して答申を作成していきたい。 4 会議内容 (1) 答申のイメージについて 資料2 ・・・資料1に基づき説明・・・ 整理はされているが、改革項目が多いと見づらくなってしまう。 整理の仕方としては良い。中身に何を記載していくかが大事である。 (2) 茅野市の行財政の目指すべき将来像に向けた対策について 資料3・4 委員 整理された具体例がまとめすぎであり、各委員の提起した内容が伝わら		

事務局	<p>ない。改革の視点で必要な項目はそのまま記載したほうが良い。また、望ましい姿に「未来型ゆいによる地縁に寄らない新たな支え合い」とあるが、この言葉は市民が理解しているのか。読んだときにわからない。</p> <p>これから地域でも非常に高齢化が進み、地域の担い手が少なくなる。支えを必要としている方と、支援の手を差し伸べる方が、別の地域にいる場合もある。そういった場合に、デジタルツールを使ったマッチングで、支え合いの輪を作っていくという構想がこの未来型ゆいとして表現している。第2次茅野市地域創生総合戦略の中で進めている構想であるが、認知度がまだ少ない部分もある。茅野市として推進する構想であり、記載させていただいた。</p>
委員	<p>ゆいわーく運営委員会でも、同じような議論をしてきた。地縁以外では、市民活動がそこを補完すると感じており、「志縁」言葉を用いてきた。地域よりもっと広くサポートする形で、志を持った人のボランティア活動が大事だと結論付けた。市全体で相互扶助のボランティア活動や市民活動が展開することが大事だが、この言葉ではうまく表現できていない。</p>
委員	<p>記載された望ましい姿は、聞いていてわかりにくい。「地縁」や「未来型ゆい」という言葉に対する理解度も薄いのかかもしれない。住民自治の中では、それぞれが考え、それぞれが支え合うような意識付けができるような部分をクローズアップしてもよいのでは。協働や市民活動といった言葉が出たほうが良い。</p>
委員	<p>市のホームページでも「未来型ゆい」の標記が統一されておらず、考え方も整理されていないのではと感じた。未来形ゆいとは何かが、知らなくてもわかるような言葉にした方が良いのでは。</p>
委員	<p>市へ答申していくにあたり、課題の整理や望ましい姿の記載は当たり障りなく書かれている。例えば「区・自治会の地域コミュニティ活動の維持」とあるが、人口が減少していく中で、同じ形態で維持することに無理がありもっと大きな課題がある。記載だけ見ると、今のいい状態をできるだけ続けていくような印象を受ける。審議会としては、現実的に無理かもしれないが、もっと大きく変えていく方向へ意見を出した方が良いのでは。会長の意見や、審議会の共通認識に向け大きく方向を変えていくような検討もできるのでは。</p>
会長	<p>望ましい姿は突き詰めると、理想的な言葉が並んでしまったり、住民自治では、市の関与と各区・自治会が主体となる部分もあり非常に難しいテーマである。答申として大きな方向性を出していく事も重要であるが、来年度に、実際に区・自治会への依頼事項の見直しや運営方法の見直し等各論をできればよいとも思っている。引き続き委員の意見をいただきたい。</p>
委員	<p>自分が意見出すときには、あえて原則廃止の様な言葉を用いた。維持ができなくなれば、活動の中でやめることを探す必要があるし、ただし、残していく、守っていく必要のある活動もあるはずで、そこを突き詰めていく必要があり、その局面に来ているのでは。</p>
委員	<p>前の委員の意見はもっともだと感じる。記載されている具体例ではなく、審議委員提案の改革項目とし、挙げられた意見をすべて書き込んだ方が良いのでは。その個別項目を市が採用するかは、市側の判断となる。</p>
委員	<p>提示された内容は、読めばある程度雰囲気はわかる内容になっており、この形を維持しつつ、具体例を細かく記載してはどうか。少し文字の多い答申となるが、それが市民感覚として検討した答申であれば良いのでは。</p>
委員	<p>答申は市長への説明がなく、文章のみで提出されるのか。</p>

事務局	正副会長が対面で答申する場を想定しており、議論の経過を説明する場を設ける予定。また、答申に付記する形で議論の経過や意見を添える予定。
委員	おそらく、文章を読むだけでは危機感が伝わらない。人手不足で地域コミュニティの維持がそもそも成り立たないとか、現在の区・自治会という形が破綻するかもしれないといった危機感がある方が良い。説明書きのような形で記載があった方が良い。
委員	問題や課題があることを、具体的にはっきり示した方が良いと感じる。大枠でまとめるよりも、どんな窮地があるのかきちんと伝わった上で、議論の整理や、望ましい姿を描いていくのが一番伝わるのでは。
委員	事務局の説明で、5年という期間の説明があった。その中で、各年度に実施する個別具体的な施策があつて、それをまとめた答申書が望ましい。具体例は多い方が良い
会長	具体例は、会議後でよいので事務局へ寄せてほしい。
委員	改革項目の最後に記載のある、「公共的な団体」とは具体的に何を指しているのか。特に問題となっている団体はどこか。
事務局	市が事務局を持つなど、市の政策に強く関わっている団体。環境分野の団体で後継者が入らず役員の固定化が進んでいると聞いている。
事務局	パートナーシップのまちづくりの手法がスタートして20年以上が経過し、当初からの団体で役員高齢化や後継者不足の問題が発生している。
委員	パートナーシップのまちづくりに関係する団体を指していると説明があつたが、「公共的な団体」では理解できない。柱は住民自治であり、読み手が理解できない表現は避けるべき。
会長	続いて(2)政策運営について意見はあるか。
委員	多様化への対応や、業務の見直しといった言葉は、具体的にどう見直すのか記載したほうが良い。事業も本当に必要かどうかをまず議論し、それから、残したものをどう見直すかが重要。業務も個々に見るのではなく、統合といった視点も必要。財政状況がひっ迫しているのであれば、必要かどうかをまず検討すべきでは。
事務局	今回改革項目の中に、事業仕分けの実施と記載があるが、この中で業務の棚卸や統廃合といった、選択と集中をしたいと考えている。
委員	資料左に委員意見とあるが、ここに事務局の意見も入っているのか。
事務局	事前ヒアリングの送付時に例示として記載した事務局案を入れている。
委員	改革項目に事務局(市側)の意見が入ると、委員意見か市の意見かわからなくなる。具体例としてまとめるのは良いが、委員意見を記載する項目には委員の意見を入れるべき。市が採用するか別としても、しっかりと整理すべき。
委員	改善項目の中に「政策立案の手法の導入」とあるが、政策立案に問題があるのではなく、立派な政策が実現できないことが問題と感じている。政策立案でなく実現手法の改革を検討しては。
委員	政策運営に関しては、「若者に選ばれるまち」を、第一に押すことはできないか。若者に選ばれる、選ばせるぐらいの政策立案できる運営が重要である。意見にも出したが、若者に選ばれるためには、若者が活躍できないといけない。ただし、若者の弱点として経験が少なく、能力がまだまだ低い部分もある。しかし経験のある先輩方がおり、失敗してもリカバリー可能な今だからこそ、若者をまず前に出してはどうか。そこを茅野市の政策の一番の柱にするような提言をしたい。今の改革案では当たり障りのないように感じており、色を出すならここだと感じている。

委員	以前に意見したが、どこにフォーカスしてどういう街にしていくか、具体的な部分は大事だと思う。「〇〇するなら茅野市！」というフレーズに繋がっていく。どこか1点を強く押すことは必要と感じる。
委員	「若者に選ばれるまち」を、前面に出すのが一番良い。市のスローガンにも掲げられ、他の政策と並列するよりも先に出していくべき。
委員	未来を作るのが、若い人たちであり、その構成で答申することはよい。
委員	若者にフォーカスするのは、政策運営だけでなく、施設や財政、住民自治すべてに関わってくる。すべての項目を通じて、移住者の促進をするようなまとめ方が良い。
委員	若者に手厚くすることに加えて、移住促進策を加えてはどうか。
会長	自分も「若者に選ばれるまち」は、改革項目の最重要項目だと認識している。他に項目出しした内容はどのように扱うのが良いか。
委員	「若者に選ばれるまち」を前面に出して、他の項目もそのためにどうするのか、表現を変えてはどうか。一点、誤解なきように言うと、若者のためのまちを目指して、他の年代を切り捨てるわけではない。若者がより働きやすくなるための施策へ変えていく改革項目として、他の項目を紐づけてはどうか。
会長	今の部分は、委員の意見を前面に出していきたい。続いて(3)財政運営について意見はあるか。
委員	望ましい姿として、「透明性があり明確な方針」とあるが、現在市の財政運営の方針はあるか。
平澤財政課長	現在の方針として、決算時に基金に頼らない財政運営と、基金の30億円確保の方針がある。
委員	質問の意図として、方針がなければ作る必要があり、それが改革項目に入るべき。方針が既にあり、実施できていなければ、実現の方法が改革項目となる。記載された望ましい姿と改革項目の関連が分かりづらい。
委員	おそらく明確な方針はないのでは。逆に改革項目である、健全な財政運営の推進や、歳入確保の推進、歳出の最適化の推進の具体的提案が出てくれば明確な方針となる。これから検討して欲しいという意味を込めて、明確な方針に基づく財政運営という望ましい姿でよいのでは。
委員	歳入確保より歳出最適化を前にしてはどうか。重要度から行くと歳出を如何に抑えるかが大事である。
委員	記載されている財政需要の平準化という表現がわかりにくい。
平澤財政課長	予算を組むうえで、大きく膨らむ年や小規模となる年がある。将来を見据えて、例えば200億程度というように、例年の規模があると計画的に予算を組んでいけるという意味である。
委員	これまでの審議会の中で「既得権化した補助金」といった言葉があったが、そういった明確な言葉がわかりやすい。
会長	資料では、補助金の指針を見直すといったまとめた言葉であり、具体的な言葉の方が明確にわかる。続いて(4)施設縮減に意見はあるか。
委員	施設は、いるいないといった仕分けと、適正な維持管理が必要。そのいるいないの仕分けをどういう組織と判断で行うのか仕組みが重要。
委員	昨年、市は公共施設再編計画を策定しているが、この計画に沿って進めていけばよいのでは。あえて今回改革項目として検討する必要があるのか。逆に言うと方針がなく計画を立てたのか。
事務局	公共施設再編計画の中でも全公共施設の方向が示されておらず、今後検討する部分は大変多い状況。それらを検討する上で、ある程度指針となる

委員	<p>判断基準をこの審議会の中で検討いただきたい。</p> <p>当初事務局案では、施設縮減を優先判断で進めるという表現があった。おそらく市に施設縮減の明確な方針はないのでは。逆に、茅野市が「若者に選ばれるまち」を方針とするなら、それに基づいて何が必要なのかという、その明確な方針を市がこれから決めることが必要。</p>
委員	<p>施設縮減の言葉は、とても後ろ向きであり、廃止する内容である。人は止めるのが苦手、止めたくないと思う人が多い。逆に施設の再編のように、廃止しながら、若者に選ばれるための施設をつくるような捉え方ができないか。例えば子育て支援施設や、若者の保護者の健康増進の施設に向けた廃止とするなど。前向きな表現で、より良いものを作るために、統廃合を徹底的にするような前向きな表現に変えてはどうか。</p>
会長	<p>プラスの発想の表現とすることはよいと思う。先ほどの公共施設再編計画と今回の行財政改革は整理が必要と感じる。</p>
事務局	<p>公共施設は、今後人口減少が進み供給過剰の状況になり、財政負担となる。そのため、国から令和2年度中に、再編計画を作る様指導があった。計画の策定を条件として補助金を受けるといった事もあり、検討したが、一部の施設は調整ができなかった。その計画上保留の施設、今後判断する方針をもとに検討を進めたい。</p>
委員	<p>公共施設の統廃合は、市民の賛同が得られにくい。そのため、なぜ統廃合が必要なのか説明が必要である。前段にできれば数字的な根拠を含めて記載したほうが良い。</p>
委員	<p>当初配布された再編計画は150ページほどの冊子で、公民館のあり方を今年と来年で検討する等記載がある。策定後の進捗管理はしているはずで、この計画を前提とすればよいのでは。</p>
事務局	<p>事務局で整理したい。</p>
委員	<p>再編計画は網羅的に施設を挙げ、設備の予算含めて、現状と方向性を書いてあるだけである。どういう方針で進めるかが全く明記されていない。膨大な資料の中に、優先度の考えが全く書かれていない。そのため本当に実行できるか非常に不透明な内容である。逆に再編計画に、縮減を進めるための方針を付け加えていくことが必要。</p>
委員	<p>施設単位で検討しているように感じるが、施設の機能で見て、似た機能は集約、効率化するような、スクラップアンドビルドの考えが足りない。集約や複合化で新たな交流も生むことも検討すべき。</p>
柿澤副市長	<p>大事な視点をいただいた。公共施設再編計画の前に、基本方針を出した際には、再編・複合化も検討した。例えば、小学校の近くにはコミュニティセンター、出張所があり、学校のリノベーションにあわせてコミュニティセンターと複合化することで地域と連携することも検討された。その合理化の手段について、一定の基準の中で再編計画を整理していくことが必要。</p>
委員	<p>施設は、再編の方が良い。町が目指す方向と、その施設のリンクが必要であり、茅野市が目指すビジョンとリンクした機能と施設を検討すべき。なくすだけではなく、作ることを足していくことが必要。</p>
会長	<p>全体を通して意見はあるか。</p>
委員	<p>望ましい姿が各項目単位で4つ記載されているが、前回まで議論した中では、住民自治で1つ、政策運営、財政運営、施設縮減のまとめた形となっていた。変更の意図を確認したい。</p>
事務局	<p>今回の資料作成に当たり、5年という期間を前提に、具体的な取組をイ</p>

委員	<p>メージして繋がっていくように柱単位の記載に変更した。</p> <p>全体として何か方針が欲しいという意見もあった。例えば若者に選ばれるまちの様に、全体の望ましい姿を記載した方がよいのでは。</p>
事務局	<p>答申のイメージを提示した際、最初の方に、全体の方針や審議会の議論のポイントに記載する項目を設けている。活用いただきたい。</p>
委員	<p>若者に選ばれるまちのような全体の方針は、箇条書きではなく、若者に選ばれて市民がどのように生き生きしていくか文章にした方がよい。</p>
会長	<p>まだ、委員の意見出しが必要と感じる。会議後でもメール等で事務局へ意見出しをしてほしい。</p>
事務局	<p>5 その他</p> <p>次回審議会 2/17（木）18：00～予定 オンライン会議。3月にあと1回会議を予定し、3月末に市長への答申を予定している。</p>
会長	<p>タイトスケジュールとなっている。あと2回で結論が出なければ、1回程度追加したい。4月に入ってから答申も視野に入れたい。</p>
副会長	<p>6 閉会</p> <p>各委員から貴重な意見をいただいた。正副会長、事務局と早期にまとめて修正案を提示したい。以上をもって第5回審議会を閉会とする。</p>

以上